ワオ高等学校　2022(令和４)年度　自己点検・評価報告書

① 学校の概要

ワオ高等学校は、2020（令和 2）年 12 月に学校法人ワオ未来学園を創立し、2021（令和３）年４月にオンラインハイスクールとして岡山県岡山市に開校した広域通信制高校である。「豊かな教養と正しい心をもって自らの幸福を求め、社会に貢献する人を育てる」ことを使命とし、従来の偏差値偏重から脱却した新たな価値観を生む教育を目指している。この使命に基づき、学校設置科目の「教養探究」で哲学・科学・経済を必修とし、対話を中心とした新しい学びを展開している。

令和４年度は２期生と共に多くの転入生を全国から受け入れた。初年度に続き、全生徒がオンラインで学ぶ共通コースを基本に、留学・起業・AI のオプションコースを開講し、教育体制の充実に取り組んだ。開校 1 周年を記念し、バーチャルオフィスツール「oVice」を活用した「バーチャルキャンパス」を本格稼働し、生徒同士が気軽に集う場所も設け、オンラインの通信制高校でありながらも、全日制高校と変わらない生徒サービス充実に努めている。

② 2022（令和４）年度の概要

新型コロナウイルス禍の中で手探りの学校運営スタートとなった 1 年目を経て、教職員・生徒共にオンラインでの学びにも慣れ、学校生活の充実や学校知名度アップへの取り組みをさらに増やしていく 1 年となった。特に生徒自身の発案でさまざまな学校行事等も実施された。コロナによる渡航制限が緩和されてきたことで、留学コースで初となる海外留学も実施された。

（1） バーチャルキャンパスを本格稼働

開校 1 周年を記念し、生徒にとっての「校舎」となるバーチャルキャンパスをオープンした。バーチャルオフィスツール「oVice」を使用し、生徒や教職員はバーチャルキャンパス内に自身のアイコンを置くことで自由な過ごし方ができるのが特徴。カメラを使って直接話をするだけなく、チャットやリアクションなどで気軽なコミュニケーションもとれるようになったことで、生徒同士や教職員との交流がより充実した。ホームルームやオンライン授業などの場所としても、徐々に活用の場面を増やした。

（2） 生徒主導の企画が充実

生徒によるワオ高校の広報活動として「project WAO」がスタート。生徒たちがワオ高校について座談会を行い、ブログなどを通じて外部に向けて発信したほか、ワオ高校オリジナルグッズ（T シャツ、パーカーなど）の制作など多彩な活動を通じて学校を盛り上げた。スクーリングと合わせて、岡山市内の鉄道会社や大学を見学する「スタディツアー」も生徒企画で実施した。

（3） スカラシップ制度を導入

留学・起業・AI のオプションコースの新入学入試で「スカラシップ制度」を導入した。コース志望者

には「中学時代に何に熱中してきたか」というテーマでプレゼンテーションを行ってもらい、その結果によって受講料免除などの措置を行った。

（４） 短期・長期海外留学を実現

海外渡航制限が緩和したことで、９月に初のオーストラリア短期留学を実施した。続いて１月からは１年間の長期高校留学も初めて実現。留学コースの生徒３名がオーストラリアへ渡航し、ホームステイをしながら、ワオ高校の提携校で高校生活をスタートした。留学期間中もバーチャルキャンパスでワオ高生たちと交流しつつ、留学コース教職員が留学生活の不安や悩みをサポートした。

（５） 初のオンライン文化祭を開催

12月に開校以来初となるオンライン文化祭「WAO！な文化祭」をバーチャルキャンパスで開催した。企画・運営の大半を生徒が主体となって担い、クイズ大会やオリジナルのすごろくゲーム、生徒や教職員による音楽発表、イラストや小説などの創作物の展示など多彩なプログラムを実施しました。文化祭の一部は、オープンスクールとして一般公開され、ワオ高校の魅力を存分に発信した。

（６） 「シンギュラリティバトルクエスト 2022」で全国優勝、２位入賞を果たす

データサイエンティスト養成プログラムを受講している生徒が「全国高校 AI アスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト 2022」に出場し、データクエスト競技で全国優勝を果たしたほか、X クエスト競技でも２位に入る好成績を残した。２年連続の上位入賞を果たし、プログラムを学んだ生徒たちが着実にレベルアップしていることが証明される結果となった。

③ 自己点検・評価の総評と課題

本校は、2021 年度の開校以降、学校関係諸法令を遵守して学校運営を行うべく、教員配置や制度設計、教育ツールの整備、オンライン環境の整備などに取り組んできた。

開校２年目を迎えた 2022 年度は、新たなオンラインツールの導入に加え、学習・学校行事コンテンツなどソフト面の充実にも力を入れ、初年度で課題としていた部分の解消に努めた。

生徒が２学年に増えたことで、本校が力を入れている対話型の学習を充実させることができているが、今後はさらに生徒数を増やしていくことで、本校が目指す学びの形を実現させることにつながると考えられる。生徒がより学習・対話がしやすい形へと、オンラインでの学習ツールやバーチャルキャンパスなどの環境を整備しつつ、教職員のスキルアップをさらに図っていく。

（１） 評価項目と基準の設定について

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン等を参考に、評価項目と基準を設定している。

（２） 評価について

A～C の３段階で評価する。

Ａ：評価基準を十分に満たしている
Ｂ：評価基準を満たしているがより改善の余地がある
Ｃ：評価基準を満たしていない

※自己評価の各項目と評価基準に対する詳しい評価結果は、別表を参照。

④ 学校関係者評価

学校関係者評価として、生徒、保護者に対しアンケートを実施している。2 学年がそろい、学習システムや学校環境を改善しながら学校運営をしていく中で、8 割を超す生徒・保護者が「とても満足」「少し満足」と回答した。中でも、教養探究などワオ高校独自の学びについては、生徒の 8 割超、保護者の 9 割超が「将来に役立つ」と回答するなど、引き続き高い期待が寄せられていることが分かる。

一方で、開校 2 年目の学校ということもあり、制度・設備面、ソフト面での改善を求められている部分もあり、今後も環境整備や教職員の意識改革などを通じて改善を図っていく。

	生徒	保護者
学校への満足度	78.9%	85.2%
ワオ高の学びは将来に役立つと思う	86.9%	91.9%

生徒・保護者アンケートの詳しい結果は別表を参照。